

令和8年度 「地理総合」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必修修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
必修修	2	前期	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書(出版社)		教材等(学習書等)		
高等学校新地理総合(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)		高等学校新地理総合 学習書(NHK出版)		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
5(水1)	2	前期1回	前期6回	

○「地理総合」の学習目標

- (1) 日本や世界にみられる諸事象を地理的に把握する基礎力を身に付け、諸事象がなぜ発生するのか、地域的にどのような特色があるかなどを理解する。
- (2) 世界と日本の自然環境の特色と人間生活との関係、世界各地の文化や産業の特色と変化について理解する。
- (3) 現代世界で地球的課題となっている地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口問題、食料問題、都市・居住問題の現状と原因を理解し、その対策について考察する。
- (4) 身近な地域で発生する自然災害の現象・原因・危険地域を理解し、減災・防災への取り組みについて考察する。

○ 学習内容の概要

- (1) 地図でとらえる現代世界
 - ・地球上の位置を示す方法を理解し、時差の求め方を身に付ける。
 - ・地図の種類とその利用法について理解し、地理情報システムを活用できるようにする。
 - ・貿易・交通・観光などによって、国家間の結び付きが深まっていることを理解する。
- (2) 国際理解と国際協力
 - ・世界の地形・気候など、自然環境の違いによって人々の生活の様子が異なり、人間が自然環境に適応している様子について考える。
 - ・世界の言語・宗教・歴史的背景・産業など、社会環境の違いによって人々の生活の様子が異なり、時代によって生活が変化している要因について考える。
 - ・現代世界の地球的課題について、その原因や地域的特色を理解し、取り組み方法についても考える。
- (3) 持続可能な地域づくりと私たち
 - ・世界と比べたときの日本の自然環境の特色について理解する。
 - ・身近な地域や日本各地で発生している自然災害について、その種類・発生要因・危険地域などを把握し、減災や防災についての取り組み方法を考える。

○ 地理歴史科からのメッセージ・・・(学習の態度・心構え)

- ・地理は暗記だけではなく、地理的事象がなぜそこに分布するのか、なぜそのようになるのかを考えることが大切です。
- ・写真や図からどのような地理的事象を読み解くことができるかも、重要な技能となります。
- ・地理で学習する内容には、私たちの生活と関連するものも多くあります。地理学習の成果を生活に役立ててください。

◎ 学習計画

・スクーリング

※スクーリングの内容はあくまでも予定であり、変更することもあります。

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポート
1	5	10	日	地図でとらえる現代世界	各種地図の特色を理解する。 国家間の結合について理解する。	第1回
2	5	24	日	生活文化の多様性(1)	世界の自然・文化の多様性と、人々の生活の様子について理解する。	第2回 第3回
3	5	27	水	生活文化の多様性(2) 地球的課題と国際協力	世界の産業の発展と人々の生活について理解する。 地球環境問題やエネルギー問題の要因と対策について考察する。人口問題・食料問題・都市問題などの特色と対策について考察する。	第4回 第5回
4	7	5	日	持続可能な地域づくりと私たち	自然災害の要因と危険地域を理解し、防災について考察する。	第6回
5	7	26	日	まとめ	全範囲の学習をまとめる。	

・レポート提出締切

締切	レポート回数	月	日	曜日
締切日①	1	5	20	水
締切日②	2・3	6	17	水
締切日③	4・5	7	15	水
締切日④	6	8	26	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出したり、レポートの可否を確認する前に次のレポートを出したりすることはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
前期	7月上旬～9月上旬 (前期レポートが終了後随時)	レポート第1回～第6回から出題します。第6回レポートの返送時に、受験申込書・出題内容を同封します。

○ レポートについて

・空欄があると再提出となります。

・字は丁寧に、見やすく書くようにしましょう。

○ 評価について

(1) 評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	地理的諸事象や現代の諸課題について、正しく理解している。
思考・判断・表現	必要な情報を活用し、課題に対して多面的に考えて答えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	学習内容に関心を持ち、意欲的に現代の諸課題を解決しようとしている。

(2) 評価方法と評定

(a) 評価方法

評価方法・観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度	具体的な評価ポイント
スクーリング	○	○	◎	授業準備・取り組み状況
レポート	◎	◎	○	記述内容・取り組みの丁寧さ等
テスト	◎	◎	○	観点ごとの点数

(b) 評定

- ・スクーリング出席規定回数を満たし、レポート全6回に合格し、テストを受けると評価対象になります。
- ・評価方法に則り、5段階で評価します。
- ・評定の「5」～「2」は単位の修得を示しています。「1」は履修認定のみです。

令和8年度 「地理探究(前)」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
選択	2	前期	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書(出版社)		教材等(学習書等)		
新詳地理探究(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)		新詳地理探究 学習書(NHK出版)		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
5(水1)	2	前期1回	前期6回	

○「地理探究(前)」の学習目標

- (1)日本や世界にみられる諸事象を地理的に把握して体系立て、諸事象がなぜ発生するのか、地域的にどのような共通点や相違点があるか、などを考察する。
- (2)地理的諸事象の成立条件・因果関係などを多面的・多角的に考察し、特徴を理解したり、図表などの資料を分析したりする地理的技能を身に付ける。
- (3)現代世界で地球的課題となっている災害・地球環境問題・食料問題・資源エネルギー問題などの特徴と原因を理解し、解決に向けての方策について考察する力を養う。

○ 学習内容の概要

(1)自然環境

地形の種類と成因、気候の成因と各気候区の特徴、日本の自然環境の特徴、災害や地球環境問題の原因と対策などについて理解し、人間が自然環境に適応している様子や、人間が自然環境に与えている影響などについて考える。

(2)資源と産業

農林水産業の種類と生産の特徴、エネルギー・鉱産資源の生産地域と特徴、資源・エネルギー問題の原因と対策、工業の立地条件や発達地域と現代の課題、第3次産業の種類と現状などについて理解し、自然環境と社会環境の関係や、地域・国による特徴の違いについて考える。

(3)交通・通信と観光、貿易

交通・通信の発達地域の違い、観光や貿易の国による違いなどについて理解し、世界各国が結びつくための方法について考える。

○ 地理歴史科からのメッセージ・・・(学習の態度・心構え)

- ・地理は暗記だけではなく、地理的事象がなぜそこに分布するのかを考えることが大切です。分布の規則性とその例外、他事象との因果関係などを考えることが必要になります。
- ・地図や表・グラフなどの資料からどのようなことが読み取れるか、写真や図からどのような地理的事象を読み解くことができるかも、重要な地理的技能となります。
- ・地理用語の中には、似たようなものがあります。それらの違いを理解し、区別できるようにしてください。
- ・地理で学習することの中には、私たちの生活と関連するものも多くあります。地理学習の成果を生活に役立ててください。

◎ 学習計画

・スクーリング

※スクーリングの内容はあくまでも予定であり、変更することもあります。

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポート
1	4	26	日	地形	地形の種類と成因を理解する。 地形図の読解力を身に付ける。	第1回
2	6	7	日	気候／地球環境問題	世界の気候の成因、各気候区の特徴を理解する。 地球環境問題について考察する。	第2回 第3回
3	6	24	水	農林水産業 エネルギー・鉱産資源	世界の農林水産業の種類と特徴について理解する。 資源・エネルギーの特徴とエネルギー問題について考察する。	第4回
4	7	19	日	工業／第3次産業	工業の立地や諸問題を考察する。 世界の結びつきの特徴や変遷について理解する。	第5回 第6回
5	8	30	日	前期の復習	前期分の学習をまとめる。	

・レポート提出締切

締切	レポート回数	月	日	曜日
締切日①	1	5	20	水
締切日②	2・3	6	17	水
締切日③	4・5	7	15	水
締切日④	6	8	26	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出したり、レポートの可否を確認する前に次のレポートを出したりすることはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
前期	7月上旬～9月上旬 (前期レポートが完了後随時)	レポート第1回～第6回から出題します。第6回レポートの返送時に、受験申込書・出題内容を同封します。

○ レポートについて

- ・問題のやり残しがないように、よく確認してください。空欄があると再提出になります。
- ・「抜き出して」とは教科書のとおりを書くことです。句読点も正確に書いてください。

○ 評価について

(1) 評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	地理的諸事象や現代の諸課題について、正しく理解できている。
思考・判断・表現	必要な情報を活用し、多面的に考察したり、適切に説明したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	社会の形成者として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

(2) 評価方法と評定

(a) 評価方法

評価方法・観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度	具体的な評価ポイント
スクーリング	○	○	◎	授業準備・取り組み状況
レポート	◎	◎	○	記述内容・取り組みの丁寧さ等
テスト	◎	◎	○	観点ごとの点数

(b) 評定

- ・スクーリング出席規定回数を満たし、レポート全6回に合格し、テストを受けると評価対象になります。
- ・評価方法に則り、5段階で評価します。
- ・評定の「5」～「2」は単位の修得を示しています。「1」は履修認定のみです。

令和8年度 「地理探究(後)」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
選択	2	後期	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書(出版社)		教材等(学習書等)		
新詳地理探究(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)		新詳地理探究 学習書(NHK出版)		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
5(水1)	2	後期1回	後期6回	

○「地理探究(後)」の学習目標

- (1)現代世界で地球的課題となっている人口問題・都市居住問題・民族問題・領土問題などの特徴と原因を理解し、解決に向けての方策について考察する。
- (2)世界の諸地域の文化・産業などを、自然環境やその他の社会環境と関連付けて理解する。
- (3)地理的諸事象の成立条件・因果関係などを多面的・多角的に考察し、特徴を理解したり、図表などの資料を分析したりする地理的技能を身に付ける。

○ 学習内容の概要

- (1)人口、村落・都市
世界の人口の特徴、人口問題、村落と都市、都市・居住問題などについて理解し、問題解決に向けて考察する。
- (2)生活文化、民族・宗教
世界各地の衣食住、民族・言語と宗教、国家の領域などについて理解し、民族問題・領土問題などの解決に向けて考察する。
- (3)現代世界の地域区分
地域区分の方法について理解し、一つ一つの地域のもつ特徴について考察する。
- (4)現代世界の諸地域
アジア・アフリカ・ヨーロッパ・南北アメリカ・オセアニアの中の代表的な国・地域について、多面的・多角的に特徴を把握し、自然環境と社会環境との関連について考察する。

○ 地理歴史科からのメッセージ・・・(学習の態度・心構え)

- ・地理は暗記だけではなく、地理的事象がなぜそこに分布するのかを考えることが大切です。分布の規則性とその例外、他事象との因果関係などを考えることが必要になります。
- ・地図や表・グラフなどの資料からどのようなことが読み取れるか、写真や図からどのような地理的事象を読み解くことができるかも、重要な地理的技能となります。
- ・地理用語の中には、似たようなものがあります。それらの違いを理解し、区別できるようにしてください。
- ・地理で学習することの中には、私たちの生活と関連するものも多くあります。地理学習の成果を生活に役立ててください。

◎ 学習計画

・スクーリング

※スクーリングの内容はあくまでも予定であり、変更することもあります。

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポート
1	10	18	日	人口、村落・都市	先進国と発展途上国の人口問題、都市・居住問題の違いを理解する。	第1回
2	11	11	水	生活文化、民族・宗教／地域区分／アジア	世界の諸文化が、自然・社会環境と関連している様子を考察する。 アジア各地の自然環境・産業・文化・国の特徴などの違いを理解する。	第2回 第3回
3	11	15	日	アフリカ／EU諸国／ロシア	各地の自然環境・産業・文化などを比較しながら、それをもたらす要因について考察する。	第4回 第5回
4	12	13	日	アメリカ合衆国／ラテンアメリカ／オセアニア	各地の自然環境・産業・文化などを理解し、地域間で比較しながら特徴や要因を考察する。	第6回
5	1	10	日	後期の復習	後期分の学習をまとめる。	

・レポート提出締切

締切	レポート回数	月	日	曜日
締切日⑤	1	10	29	木
締切日⑥	2・3	11	25	水
締切日⑦	4・5	12	23	水
締切日⑧	6	1	20	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出したり、レポートの可否を確認する前に次のレポートを出したりすることはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
後期	11月下旬～2月上旬 (後期レポートが完了後随時)	レポート第1回～第6回から出題します。第6回レポート返送時に、受験申込書・テスト範囲を同封します。

○ レポートについて

- ・問題のやり残しがないように、よく確認をしてください。空欄があると再提出となります。
- ・「抜き出して」とは教科書のとおりを書くことです。句読点も正確に書いてください。

○ 評価について

(1) 評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	地理的諸事象や現代の諸課題について、正しく理解できている。
思考・判断・表現	必要な情報を活用し、多面的に考察したり、適切に説明したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	社会の形成者として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

(2) 評価方法と評定

(a) 評価方法

評価方法・観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度	具体的な評価ポイント
スクーリング	○	○	◎	授業準備・取り組み状況
レポート	◎	◎	○	記述内容・取り組みの丁寧さ等
テスト	◎	◎	○	観点ごとの点数

(b) 評定

- ・スクーリング出席規定回数を満たし、レポート全6回に合格し、テストを受けると評価対象になります。
- ・評価方法に則り、5段階で評価します。
- ・評定の「5」～「2」は単位の修得を示しています。「1」は履修認定のみです。

令和 8 年度 「歴史総合」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
必修	2	後期	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書(出版社)		教材等(学習書等)		
新選 歴史総合(東京書籍)		新選 歴史総合 学習書(NHK出版)		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
5(水1)	2	後期1回	後期6回	

○ 「歴史総合」の学習目標

- ・近現代における歴史上の諸事象について、世界と日本の関係を相互的な視野でとらえ、現代の諸課題にかかわる歴史を理解するための情報をまとめる能力を身につける。
- ・近現代史の諸事象の意味や特徴を多面的・多角的に考察し、諸課題を解決するための構想を描く力や、考察したことを効果的にまとめ、説明する能力を身につける。
- ・近現代史の諸事情を学びながら、よりよい社会を実現するために主体的に考察し、自国の歴史を正しく理解するとともに、他国の歴史や文化を尊重する態度を養う。

○ 学習内容の概要

第1章 歴史の扉

中学校での歴史分野の学習をふり返り、日本と世界が歴史的につながっていることを理解します。

第2章 近代化と私たち

- (1) 日本の開国や、産業革命を契機とする世界経済の変化を題材に、近代化について理解します。
- (2) ヨーロッパの市民革命をきっかけとした自由主義とナショナリズムの台頭と、帝国主義がもたらした植民地政策がアジアにもたらした影響について学びます。
- (3) 日清戦争後の日本を中心に、帝国主義諸国の競合と 20 世紀初頭の世界情勢について学びます。

第3章 国際秩序の変化や大衆化と私たち

- (1) 第一次世界大戦が世界に与えた影響と国際協調体制の形成、民主主義の拡大について学びます。
- (2) 第二次世界大戦が起きた背景と、ドイツ・日本・アメリカなどの対応の変化、冷戦の開始などについて学びます。

第4章 グローバル化と私たち

- (1) 冷戦の構造とその変容について学びます。
- (2) 冷戦終結とグローバル化の進展について学び、今後の世界と日本のあり方について考察します。

○ 地理歴史科からのメッセージ・・・(学習の態度・心構え)

「歴史総合」という科目は、18 世紀以降の近現代の歴史を、世界と日本を融合させて学習するものです。

「歴史総合」では歴史を単なる事象としてだけではなく、それが起こった要因や、それが与えた影響なども考えます。教科書や学習書以外にも、歴史関係の書物がたくさん出版されています。これらもよい学習の材料となるので、NHK 高校講座とともに積極的に活用してください。

◎ 学習計画

・スクーリング

※スクーリングの内容はあくまでも予定であり、変更することもあります。

回	月	日	曜	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	10	11	日	結び付く世界と日本の開国	18 世紀の世界の様子と、産業革命が世界に及ぼした影響について学びます。	第1回
2	10	25	日	国民国家と明治維新 第一次世界大戦	近代社会の形成と、列強の帝国主義の様子、第一次世界大戦の展開とその後の国際協調体制の形成・変容について学びます。	第2回・第3回
3	11	18	水	第二次世界大戦と冷戦	第二次世界大戦の背景と展開、その後の冷戦の構造と変容について学びます。	第4回・第5回
4	12	13	日	世界秩序の変容と日本	アジアの経済発展と冷戦後の地域紛争、グローバル化の影響について考察します。	第6回
5	1	10	日	まとめ	全範囲の学習をまとめます。	

・レポート提出締切

締切	レポート回数	月	日	曜日
締切日⑤	1	10	29	木
締切日⑥	2・3	11	25	水
締切日⑦	4・5	12	23	水
締切日⑧	6	1	20	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出したり、レポートの可否を確認する前に次のレポートを出したりすることはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
後期	11 月下旬～2月上旬 (後期レポートが完了後随時)	レポート第1回～第6回から出題します。第6回レポート返送時に、受験申込書・テスト範囲を同封します。

○ レポートについて

- ・空欄があると不合格になりますので、必ず全部の問題に解答してから提出してください。
- ・教科書の該当箇所を必ず確認してください。

○ 評価について

(1) 評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	近現代史のなかで起こる諸事象について正しく理解し、世界と日本の歴史が互いに影響し合っているという視点でとらえることができる。
思考・判断・表現	近現代史のなかで起こる諸事象について、その意味や要因を考察し、文章化して適切に説明することができる。
主体的に学習に取り組む態度	近現代史で学習したことをふまえて、よりよい社会や国際関係を築くためにはどうしたらよいか、主体的に考えることができる。

(2) 評価方法と評定

(a) 評価方法

評価方法・観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度	具体的な評価ポイント
スクーリング	○	○	◎	授業準備・取り組み状況
レポート	◎	◎	○	記述内容・取り組みの丁寧さ等
テスト	◎	◎	○	観点ごとの点数

(b) 評定

- ・スクーリング出席規定回数を満たし、レポート全6回に合格し、テストを受けると評価対象になります。
- ・評価方法に則り、5段階で評価します。
- ・評定の「5」～「2」は単位の修得を示しています。「1」は履修認定のみです。

令和8年度 「日本史探究（前）」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
選択	2	前期	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書（出版社）		教材等（学習書等）		
日本史探究（東京書籍）		日本史探究 学習書（NHK出版）		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
5（水1）	2	前期1回	前期6回	

○ 「日本史探究（前）」の学習目標

- ・原始・古代から近世までの日本の歴史的事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解し、諸資料から様々な情報を調べてまとめる技能を身につける。
- ・我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、概念などを活用して歴史に見られる課題の発見や解決をする力、多面的・多角的に考察し、説明する力を身につける。

○ 学習内容の概要

第1編 先史・古代の日本と東アジア 旧石器時代から平安時代までを扱い、原始・古代がどのような時代であったかを東アジア世界との動向と関連付けて学びます。
第2編 中世の日本と世界 平安時代末から戦国時代までを扱い、中世がどのような時代であったかを東アジアやユーラシアの動向と関連付けて学びます。
第3編 近世の日本と世界 安土桃山時代から江戸時代までを扱い、近世がどのような時代であったかを世界の動向と関連付けて学びます。

○ 地理歴史科からのメッセージ…（学習の態度・心構え）

日本史の学習では過去の変化を読み取ります。歴史の原因－結果に着目しながら、歴史的な出来事がなぜ起きたのかを意識して学習してみてください。学習のなかで自らのことを振り返り、社会の情勢を見る力をつけて人生に生かしてください。

◎ 学習計画

・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	5	10	日	旧石器時代の日本から律令国家の形成	旧石器文化・縄文文化・弥生時代の成立や律令国家形成の過程と変容について学びます。	第1回
2	5	24	日	平城京と天平文化から平安時代末期、朝廷政治の変容から元寇	律令国家の変容と摂関政治、武士の誕生について、貴族政治の変容から武士の政治進出、武家政権の成立と展開について学びます。	第2回・第3回
3	6	21	日	室町幕府の成立前後と各文化、幕藩体制の確立から元禄文化	武家政権の伸張と室町・北山、東山、桃山文化について学びます。 幕藩体制の成立と変容、元禄文化について学びます。	第4回・第5回
4	7	19	日	近世社会の成熟と幕藩体制の動揺	享保の改革からの諸改革、幕藩体制の動き、近世の国家や社会の変容について学びます。	第6回
5	7	22	水	まとめ	これまでの学習内容をまとめる。	

・レポート提出締切

回	月	日	曜日
1	5	20	水
2	6	17	水
3			
4	7	15	水
5			
6	8	26	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出することや、レポートの可否を確認する前に次のレポートを出すことはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
前期	7月上旬～9月上旬 (前期レポートが完了後随時)	レポート第1回～第6回から出題します。第6回レポート返送時に、受験申込書・テスト範囲を同封します。

○ レポートについて

- ・教科書や学習書の指定されたページをしっかりと読みこむことで、レポートを完成させることができるようになっていきます。本文だけでなく、図などもよく見て完成させてください。
- ・空欄がある場合や、間違いが多い場合には、再提出（E判定）になることがあります。
- ・レポートの最後に質問・感想等を書く欄がありますが、記述は任意です。

○ 評価について

(1) 評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容（評価規準）	
知識・技能	○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解している。 ○諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	○我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想している。
主体的に学習に取り組む態度	○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ○よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを主体的に見いだそうとしている。

(2) 評価方法と評定

(a) 評価方法

評価方法・観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度	具体的な評価ポイント
スクーリング	○	○	◎	授業準備・取り組み状況
レポート	◎	◎	○	記述内容・取り組みの丁寧さ等
テスト	◎	◎	○	観点ごとの点数

(b) 評定

- ・スクーリング出席回数を満たし、レポート全6回に合格し、テストを受けると評価対象になります。
- ・評価方法に則り、5段階で評価します。
- ・評定の「5」～「2」は単位の修得を示しています。「1」は履修認定のみです。

令和8年度 「日本史探究（後）」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
選択	2	後期	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書（出版社）		教材等（学習書等）		
日本史探究（東京書籍）		日本史探究 学習書（東京書籍）		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
5（水1）	2	後期1回	後期6回	

○ 「日本史探究（後）」の学習目標

- ・近現代の日本の歴史的事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解し、諸資料から様々な情報を調べてまとめる技能を身につける。
- ・近現代の日本の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、概念などを活用して歴史に見られる課題の発見や解決をする力、多面的・多角的に考察し、説明する力を身につける。

○ 学習内容の概要

第4編 近現代の地域・日本と世界

近代の政治の展開と国際的地位の確立、第一次世界大戦前後の対外政策や国内経済、産業の発達
の背景と影響、第二次世界大戦と日本の動向、第二次世界大戦後の政治や社会・外交・経済について
学びます。

○ 地理歴史科からのメッセージ…（学習の態度・心構え）

日本史の学習では過去の変化を読み取ります。歴史の原因－結果に着目しながら、歴史的な出来事
がなぜ起きたのかを意識して学習してみてください。学習のなかで自らのことを振り返り、社会の
情勢を見る力をつけて人生に生かしてください。

◎ 学習計画

・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	10	18	日	開国と明治維新 と新政府の政策	開国から幕府の崩壊、明治維新と新政府の 政策について学びます。	第1回
2	10	25	日	立憲政治成立の 過程と外交	立憲政治成立前後、条約改正と日清戦争、 日本での産業革命について学びます。	第2回
3	11	15	日	日露戦争、第一 次世界大戦前後	日露戦争前後、第一次世界大戦とその影響 について学びます。	第3回
4	12	20	日	明治・大正の文 化・社会運動、第 二次世界大戦前 後の日本	明治、大正の文学や美術などの文化と生活 の変化、第二次世界大戦前後の日本の政治 や占領政策、独立後の日本について学びま す。	第4回・第5回
5	1	20	水	国際社会への復 帰と高度経済成 長	戦後からの復興と政治の動き、高度経済成 長から国際社会の中での日本について学 びます。	第6回

・レポート提出締切

回	月	日	曜日
1	10	29	木
2	11	25	水
3			
4	12	23	水
5			
6	1	20	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出することや、レポートの可否を確認する前に次のレポートを出すことはできません。

・テスト

期間	出題内容など
11月下旬～2月上旬 (後期レポートが完了後随時)	レポート第1回～第6回から出題します。第6回レポート返送時に、受験申込書・テスト範囲を同封します。

○ レポートについて

- ・教科書や学習書の指定されたページをしっかりと読みこむことで、レポートを完成させることができるようになっていきます。本文だけでなく、図などもよく見て完成させてください。
- ・空欄がある場合や、間違いが多い場合には、再提出（E判定）になることがあります。
- ・レポートの最後に質問・感想等を書く欄がありますが、記述は任意です。

○ 評価について

(1) 評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容（評価規準）	
知識・技能	○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解している。 ○諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	○我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、次期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想している。
主体的に学習に取り組む態度	○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ○よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを主体的に見いだそうとしている。

(2) 評価方法と評定

(a) 評価方法

評価方法・観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度	具体的な評価ポイント
スクーリング	○	○	◎	授業準備・取り組み状況
レポート	◎	◎	○	記述内容・取り組みの丁寧さ等
テスト	◎	◎	○	観点ごとの点数

(b) 評定

- ・スクーリング出席回数を満たし、レポート全6回に合格し、テストを受けると評価対象になります。
- ・評価方法に則り、5段階で評価します。
- ・評定の「5」～「2」は単位の修得を示しています。「1」は履修認定のみです。

令和8年度 「世界史探究（前）」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
選択	2	前期	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書(出版社)		教材等(学習書等)		
世界史探究(東京書籍)		世界史探究 学習書(NHK出版)		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
5(水1)	2	前期1回	前期6回	

○ 「世界史探究(前)」の学習目標

- ・世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、諸資料から様々な情報を調べてまとめる技能を身につける。
- ・世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、概念などを活用して歴史に見られる課題の発見や解決をする力、多面的・多角的に考察し、説明する力を身につける。

○ 学習内容の概要

第1編 諸地域の歴史的特質

メソポタミア文明やエジプト文明などの古代文明や地中海世界の変遷、春秋時代から唐滅亡までの動向、イスラーム世界・インド世界の成立などの歴史的事象や文化、社会、国家の変容について学びます。

第2編 諸地域の交流と再編

イスラーム世界の拡大とイスラーム文明、中世ヨーロッパの社会と文化、唐滅亡後からモンゴル帝国、インド洋海域と東南アジア世界、大交易時代、オスマン帝国・ムガル帝国・清などのユーラシア諸帝国の繁栄について学びます。

○ 地理歴史科からのメッセージ・・・(学習の態度・心構え)

世界の歴史を学ぶなかで、馴染みある日本とは違った見方や気づきがあると思います。また、日本や現在の私たちの生活に世界が与えている影響を知るきっかけになります。歴史的事象の原因、結果や影響、それぞれの国との関連を意識しながら教科書中の地図や資料を活用して学習してください。深く理解したい場合には NHK 高校講座を視聴してみてください。

◎ 学習計画

・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	4	26	日	古代文明から地中海世界の解体	古代文明と古代ギリシア、ローマ帝国の変遷について学びます。	第1回
2	6	7	日	イスラーム世界の成立、中世ヨーロッパ世界、インド世界の形成、春秋時代から唐の滅亡	イスラーム世界の成立、ゲルマン人の大移動やフランク王国などのヨーロッパの変容、インド世界の形成過程、春秋・戦国時代、秦から唐までの中国王朝の変遷について学びます。	第2・3回
3	7	1	水	イスラーム世界、中世ヨーロッパ	イスラーム世界の発展と中世ヨーロッパの変容について学びます。	第4回
4	7	5	日	東アジア・東南アジア	東アジア・東南アジアについて学びます。	第5回
5	8	23	日	大交易時代、ユーラシア諸帝国の繁栄	大交易時代とオスマン帝国、ムガル帝国、清と東アジアについて学びます。	第6回

・レポート提出締切

締切	レポート回数	月	日	曜日
締切日①	1	5	20	水
締切日②	2・3	6	17	水
締切日③	4・5	7	15	水
締切日④	6	8	26	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出することや、レポートの合否を確認する前に次のレポートを出すことはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
前期	7月上旬～9月上旬 (前期レポートが完了後随時)	レポート第1回～第6回から出題します。 第6回レポート返送時に、受験申込書・テスト範囲を同封します。

○ レポートについて

- ・教科書や学習書の指定されたページをしっかりと読んで理解できれば、答えが見つかり、レポートを完成させることができるようになっています。本文だけでなく、欄外の解説や、図・グラフなどもよく見て完成させてください。
- ・空欄がある場合や、間違いが多い場合には、再提出(E判定)になることがあります。
- ・レポートの最後に「感想・質問等」の欄がありますが、記述は任意です。

○ 評価について

(1)評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解している。 諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想している。
主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを主体的に見いだそうとしている。

(2)評価方法と評定

(a)評価方法

評価方法・観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度	具体的な評価ポイント
スクーリング	○	○	◎	授業準備・取り組み状況
レポート	○	◎	○	記述内容・取り組みの丁寧さ等
テスト	◎	◎	○	観点ごとの点数

(b)評定

- ・スクーリング出席規定回数を満たし、レポート全6回に合格し、テストを受けると評価対象になります。
- ・評価方法に則り、5段階で評価します。
- ・評定の「5」～「2」は単位の修得を示しています。「1」は履修認定のみです。

令和8年度 「世界史探究（後）」 シラバス

群馬県立前橋清陵高等学校 通信制

必修・選択	単位数	期間	学科・コース等	学年
選択	2	後期	普通科・衛生看護科	第1～4年次
教科書(出版社)		教材等(学習書等)		
世界史探究(東京書籍)		世界史探究 学習書(NHK出版)		
開講時間数	必要面接時間数	テスト回数	レポート提出回数	
5(水1)	2	後期1回	後期6回	

○ 「世界史探究(後)」の学習目標

- ・世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、諸資料から様々な情報を調べてまとめる技能を身につける。
- ・世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、概念などを活用して歴史に見られる課題の発見や解決をする力、多面的・多角的に考察し、説明する力を身につける。

○ 学習内容の概要

第2編 諸地域の交流と再編

主権国家体制の形成、宗教改革、名誉革命や絶対王政について学びます。

第3編 一体化していく世界

産業革命、アメリカ独立、フランス革命、列強の覇権争いから第一次世界大戦、第二次世界大戦後までの各国の動向や政治・社会の変遷について学びます。

第4編 グローバル化と地球的課題

第二次世界大戦後の国際的なつながりと対立、冷戦の展開について学びます。

○ 地理歴史科からのメッセージ・・・(学習の態度・心構え)

世界の歴史を学ばなかで、日本とは違った見方や気づきがあると思います。また、日本や現在の私たちの生活に世界が与えている影響を知るきっかけになります。歴史的事象の原因、結果や影響、それぞれの国との関連を意識しながら教科書中の地図や資料を活用して学習してください。深く理解したい場合には NHK 高校講座を視聴してみてください。

◎ 学習計画

・スクーリング

回	月	日	曜日	学習項目	学習の内容・ねらい	レポートとの対応
1	10	18	日	主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大	主権国家と宗教改革、イギリス革命・名誉革命、絶対王政、三角貿易などについて学びます。	第1回
2	10	21	水	国民国家と近代社会の形成、世界市場の変容とアジア諸国変容	産業革命とアメリカ合衆国の独立、フランス革命、19世紀後半のヨーロッパ諸国、産業資本主義の世界への波及と欧米社会、列強の覇権争いについて学びます。	第2・3回
3	11	29	日	第一次世界大戦前後	第一次世界大戦に至るまでの各国の動き、開戦から終戦までについて学びます。	第4回
4	12	13	日	第二次世界大戦前後	第二次世界大戦に至るまでの各国の動き、開戦から終戦までについて学びます。	第5回
5	12	20	日	第二次世界大戦前後の世界と冷戦の展開	第二次世界大戦前後の世界と冷戦の展開について学びます。	第6回

・レポート提出締切

締切	レポート回数	月	日	曜日
締切日⑤	1	10	29	木
締切日⑥	2・3	11	25	水
締切日⑦	4・5	12	23	水
締切日⑧	6	1	20	水

※2回分以上のレポートをまとめて提出することや、レポートの合否を確認する前に次のレポートを出すことはできません。

・テスト

	期間	出題内容など
後期	11月下旬～2月上旬 (後期レポートが完了後随時)	レポート第1回～第6回から出題します。 第6回レポート返送時に、受験申込書・テスト範囲を同封します。

○ レポートについて

- ・教科書や学習書の指定されたページをしっかりと読んで理解できれば、答えが見つかり、レポートを完成させることができるようになっています。本文だけでなく、欄外の解説や、図・グラフなどもよく見て完成させてください。
- ・空欄がある場合や、間違いが多い場合には、再提出(E判定)になることがあります。
- ・レポートの最後に「感想・質問等」の欄がありますが、記述は任意です。

○ 評価について

(1)評価の観点および内容(評価規準)

評価の観点および内容(評価規準)	
知識・技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解している。 諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想している。
主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを主体的に見いだそうとしている。

(2)評価方法と評定

(a)評価方法

評価方法・観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度	具体的な評価ポイント
スクーリング	○	○	◎	授業準備・取り組み状況
レポート	○	◎	○	記述内容・取り組みの丁寧さ等
テスト	◎	◎	○	観点ごとの点数

(b)評定

- ・スクーリング出席規定回数を満たし、レポート全6回に合格し、テストを受けると評価対象になります。
- ・評価方法に則り、5段階で評価します。
- ・評定の「5」～「2」は単位の修得を示しています。「1」は履修認定のみです。